The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | Gallia　61号　報告 |
| Author(s) | |
| Citation | Gallia. 2022, 61, p. 128-130 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/87606 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

# 報　　告

**講義題目**（2021 年度）

山上　浩嗣　教　授（演）パスカル『パンセ』を読む　（秋・冬学期）（共通）
（演）フランス文学と西洋絵画　（共通）
（演）モンテーニュ『エセー』を読む　（春・夏学期）（共通）
（講）18 世紀フランス文学作品原文講読（春・夏学期）（学部）

Éric Avocat 特任准教授（演）Lire et écrire en français : littérature et sciences humaines
（共通）
（演）Études sur la culture visuelle : apprendre à décrire et commenter une image, en français
（春・夏学期）（学部・修士）
（演）Les voyages de Nicolas Bouvier　（秋・冬学期）（大学院）
（講）フランス映画――歴史と社会の鏡
（秋・冬学期）（山上教授と共同、共通）
（演）Préparation des examens de langue française DELF-DALF
（春・夏学期）（学部・修士）
（演）Exercices pratiques de langue française
（秋・冬学期）（学部・修士）

中村　　翠　講　師（講）文学とアダプテーション――ゾラ『ナナ』を例に
（秋・冬学期）（共通）

林　　千宏　准教授（講）フランス・ルネサンス詩研究――恋愛抒情詩を中心に
（春・夏学期）（共通）

平光　文乃　助教授（演）プルースト『失われた時を求めて』における旅の場面を読む　（共通）

**卒業論文**（2020 年度）

・ラ・フォンテーヌ『寓話』における自己の尊重
酒　井　　栞

・ミラン・クンデラ『緩やかさ』における物語の 3 つの階層
菅　野　梨　夏

・アンドレ・ブルトン『ナジャ』の心理的分析――シュルレアリスムにおける理想像としてのナジャという女性――
丸　山　智　大

**修士論文**（2020 年度）

・L'évolution de la préciosité dans les comédies de Molière : l'image des précieuses dans *Les Précieuses ridicules* et *Les Femmes savantes*

牛　島　寿々佳

・Les mazarinades de Cardinal de Retz et leurs «publics» : entre rhétorique savante et passions populaires

涌　井　萌　子

**日本フランス語フランス文学会研究発表**

2021 年 5 月 22 日（土）・5 月 23 日（日）（全国春季大会、上智大学、オンライン）

・ゾラ『マドレーヌ・フェラ』におけるヒロイン形成の場――修道院から郊外へ

安　達　孝　信

・『カルメン』におけるホセの人物像（ビデオセッション）

戸　田　千　晶

・レ枢機卿のマザリナードと『公衆』（ビデオセッション）

涌　井　萌　子

2021 年 10 月 30 日（土）・31 日（日）（全国秋季大会、岡山大学、オンライン）

・Et tout le reste est littérature. Le travail de la langue, entre ce qu'elle doit être et ce qu'elle peut dire
（ワークショップ企画「La didactique de la littérature de langue française en licence au Japon」）

Éric Avocat

・ポンジュにおけるポーラン的主題の受容と変奏――「言葉の力」の解釈を中心に

太　田　晋　介

・パスカルにおける認識の多様性と視覚イメージの結びつき――『真空論序言』を通じて

川　上　紘　史

2021 年 12 月 4 日（土）（関西支部大会、大阪市立大学、オンライン）

・レ枢機卿におけるもっともらしさ la vraisemblance

涌　井　萌　子

## 大阪大学フランス語フランス文学会研究発表

第 87 回研究会　2021 年 9 月 18 日（土）（於大阪大学文学部 2 階大会議室）

・マルグリット・デュラスの作品における身体と眼差し

青　木　佑　介

司会：井　上　直　子

・カミュ「生い出ずる石」の生成過程に関する一考察

安　藤　麻　貴

司会：井　上　直　子

・プルーストの作品における創造の部屋

平　光　文　乃

司会：和　田　章　男

第 88 回研究会　2022 年 3 月 5 日（土）（於大阪大学文学部 2 階大会議室）

・レ枢機卿の英雄観――寛容 magnanimité をめぐって――

涌　井　萌　子

司会：岩　根　　久

・制作と遊戯――ミラン・クンデラの亡命後の小説について――

篠　原　　学

司会：高　橋　克　欣

・初期ヴェルレーヌが探求した韻文詩における「新しさ」について（仮題）

山　本　健　二

司会：北　村　　卓

＊和田章男教授・岩根久教授退職記念の会はコロナ禍が収まるまで延期とさせていただきます。